

留学を終えて

加納高等学校 山本泰地（ボリビア）

私が10ヶ月の留学を通して学んだことは、2つあります。

一つ目は、コミュニケーションの手段は「言語」だけでないと言う事です。海外の方とのコミュニケーションを取りたい、けれど自分は他の国の言語なんて話せないから難しい私も初めはそう考えていました。ですが、コミュニケーションの方法は何も、一つではありません。私の留学ライフを支えてくれたのは、ボディーランゲージです。留学初めての友達はもちろん、初めの2ヶ月間の私生活はほとんどボディーランゲージで成り立たせていたと言っても過言ではありません。

ボリビアという国は、英語を使うことのできない人が多く、多くの人が英語の喋れる他の国への派遣生の方々とは違い、初めの頃のコミュニケーションツールとして英語を使うことが出来ませんでした。そんな時こそボディーランゲージ!私は、身振り手振りで沢山の人と交流し、友達もたくさん作ることができました。これらの経験のおかげで自信がつき、今ではどこの国に飛ばされてもなんとかやっていける自信が有ります。

二つ目は、文化の違いです。留学に行く上で多くの留学生がぶつかる壁だと思います。私は南米に行くということもあり、日本にいた頃とは全く違う生活を覚悟しており、そのおかげで文化感のギャップにショックを受けることもなく、むしろ楽しむことができました。たくさん見つけた文化の違いの中で特にお気に入りのものを紹介します。それは人と人の距離です。先に話した、ボディーランゲージの話にも関係してきますが、ボリビアの人たちは、必ず相手の目を見て、とてつもない至近距離で話します。ただの友達でも、日本の恋人のような距離感ではします。私も正直最初は戸惑いました。けれど、そんな距離感の中で過ごしていて気づきました。体の距離が近いと、自然と心の距離も近くなるのです。日本だと初対面の人とはどうしても、物理的距離を置いて会話をするし、心と心もどこか線を引いて会話をしているように感じます。もちろんそれが日本の文化であって、それが心地よいと感じる人もいると思います。ですが私はボリビアでの人と人の距離感が心地よく、素敵な文化だなと感じました。

最後に人種差別の話を伝えたいです。私の留学期間中、何度か自分自身のみで体験しました。ですが私が生活していて、友人、家族はもちろん、私と顔見知りである人は全員、私に対して一度でも人種差別をしたことはありませんでした。また、これらの人たちがこれからの人生でアジア人差別をすることもないと私は確信しています。これらのことに全てが詰め込まれていると思います。赤の他人だから、その人のことを何も知らないから差別が起こるのです。私にアジア人

差別をした人だって、もしも私と同じ学校だったら、一緒に食事をしたことがあったら、少しでも話をしたことがあったら、きっと差別なんてしなかったと思います。だからこそ私は、差別なんてことは勿論しないし、相手のこと知る前に、自分の勝手な知識や偏見の色眼鏡で人のことを見るべきではないということを学びました。

多くのことを学んだ留学でした。これからの私の人生に活かしていけるかは私次第、沢山の経験を忘れずに頑張りたいと思います。